

被爆80年から核廃絶へ —「核兵器をなくす日本キャンペーン」の挑戦

浅野英男

(一般社団法人核兵器をなくす日本キャンペーンコーディネーター)

今年8月、被爆80年を広島と長崎で迎えました。この夏には、私個人としても特別な思い入れがありました。なぜなら、私が核兵器のない世界の実現を志してから10年の月日を刻んだからです。

今年の広島では、学生時代に初めて平和記念資料館を訪れたことを思い起こしていました。当時、原爆投下直後の生き地獄と被爆者の証言を目の当たりにし、「この悲惨な歴史を絶対に繰り返したくない」と強く心を揺り動かされました。これは私にとって、核兵器の問題が、教科書で学んだヒロシマ・ナガサキの「過去の歴史」から現在と未来を生きる当事者としての「自分ごと」に変わった瞬間でした。そこから勉学を重ね、現在は核兵器をなくす活動を仕事にするまでになりました。

そうした自らの歩みを振り返ると、被爆者が、思い起こしたくもない悲痛な経験から「人類を救うため」と立ち上がり、どんな困難にも決して諦めず行動を貫いてきたその姿には、一人の心に勇気を灯し、その人の人生を変えていく力がある、と痛感します。核をめぐり世界が厳しい情勢にある今だからこそ、私自身もこうした先輩たちの「生き方」を継承し、希望の言葉を紡げる人に成長していきたい。そのように決意した被爆80年の夏でした。

そのような想いを胸に、私は「核兵器をなくす日本キャンペーン」のコーディネーターを務めています。このキャンペーンは、日本が核兵器禁止条約に参加することを目標に、日本YWCAや日本被団協など国内NGO45団体と個人30人によって構成される「核兵器廃絶日本NGO連絡会」を母体とし、2024年4月に発足しました。

日本キャンペーンが目指しているのは、超党派かつ超世代で、核兵器のない世界の実現に取り組むことです。代表理事を務める日本被団協の田中熙巳さんを筆頭に、多様な世代や立場の人々が力を合わせて活動しています。

私たちの取り組みには「政治への働きかけ」と「市民への働きかけ」

があります。政治については、与野党の国会議員を招き「国会議員討論会」を開催する（2018年から計10回実施、2024年4月まではNGO連絡会による主催）など、日本の核兵器禁止条約への参加に向けた議論を積み重ねてきました。そのなかで、少なくとも日本は条約の会議にオブザーバー参加すべきという意見が党派を超えて支持されるようになり、今年3月の第3回締約国会議の前には、多くの議員が国会でこの問題を取り上げました。その結果、参加見送りという結論にはなったものの、政府内でようやく真剣な検討がなされるに至りました。

また、政府が来ないのならば、せめて国会議員に参加いただこうと各党に働きかけ、第3回締約国会議では与野党から6人の国会議員による現地渡航を実現しました。国連本部での会議参加登録や主要論点の解説、現地での要人面会の設定などを私たちがコーディネートし、私自身も日本市民社会の代表として会議に参加しました。

政治への働きかけに加え、市民の連帯を広げるための様々なイベントや取り組みも実施しています。例えば、今年の2月には「被爆80年核兵器をなくす国際市民フォーラム」を東京で開催し、2日間で900人以上の参加を得ることができました。そのほかにも Hibakusha Dialogue プロジェクトや、国連広報センターと共に開催した「平和・核廃絶キャリアフェス」、日本各地での講演会など、一人でも多くの市民が核廃絶を考えるための機会を作っています。最近では、特に10代や20代の新しい若手が多く関わってくれるようになり、キャンペーンが着実な広がりを見せていることをうれしく感じています。

これからも「核なき世界を日本から」との思いで精一杯、活動していきます。ぜひ、日本キャンペーンを応援していただけたらうれしいです。